

花

37
特集

創生学部の学びから見えてくる社会に求められていること、
37年ぶりの新学部、始動

いま
新潟大学の魅力と現在を発信

新潟大学季刊広報誌 [RIKKA]

2017.SPRING

NIIGATA UNIVERSITY
MAGAZINE

No.

20

授業紹介 -教育の現場-

学生の課外活動&サークル紹介 Enjoy! 学生ライフ

注目される研究報告

シリーズ 恩師と語らう

活躍する卒業生紹介 “学びの先”

OBOG・教員によるコラム

基金関係のお知らせ

Campus Information



特集 37年ぶりの新学部、始動

～創生学部の学びから見えてくる社会に求められていること～

37年ぶりに新潟大学に誕生した新学部「創生学部」。従来の教育プログラムとは全く違う「到達目標創造型」プログラム、そしてその学びから社会に送り出される「自己創造型学修者」とは。その学びとそこで育まれる人材を通じ見えてくる今社会に求められていることに迫る。



創生学部を通して実現する 新しい時代の人材育成

新学部の目的 社会ニーズと

37年ぶりの新学部誕生。その背景には、ドラストイックな社会情勢に伴う人材へのニーズや、社会の成熟による学びと学生気質の変化など、多様な要素がある。創生学部の設置はこれらの状況に対応する新潟大学の重要な取り組みであり、そのコンセプトを通すと「今、社会が求めているもの」が見える。新しい時代の人材育成を目指しスタートを切った鳴海敬倫学部長に

聞いた。
「今の日本の教育制度では、学びは与えられるものという感覚でいる人が多いかもしれません。しかし、グローバル化した社会では自分で考え、自分で行動できる人材が求められます。学生の段階から主体的に目的意識を持つて学べば、卒業後の成長も違うでしょう。課題解決を得意とする能力、多面的な視点。それらを学ぶことができるのが創生学部のカリキュラムです」

鳴海敬倫 創生学部長
博士(工学)。専門は機械工学、流体工学。

2017 SPRING vol.20

CONTENTS

- 03 特集 **37年ぶりの新学部、始動**
～創生学部の学びから見えてくる社会に求められていること～
- 08 授業紹介 -教育の現場-
- 09 Enjoy! 学生ライフ
- 10 注目される研究報告
- 12 シリーズ 恩師と語らう
- 13 活躍する卒業生紹介 “学びの先”
- 14 OBOG・教員によるコラム
- 15 基金関係のお知らせ
- 16 Campus Information

Cover Photo

4月3日(月)多くの関係者、学生の見守る中、総合教育研究棟の玄間に上掲された創生学部の銘板。今はまだ真新しい輝きを放つ創生学部の文字がこれから歴史とともに風格を帶びていくことを期待させる。

創生学部

『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザインしたものです。



題字
野中浩俊(のなか ひろとし)氏
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。現在は、岐阜女子大学 教授

公式Facebookページ更新中!



本学ホームページからアクセスしてください。

ホームページで発信するニュースのほか、四季折々のキャンパス内の風景など新潟大学をもっと身近に感じていただけるコンテンツを発信しています。多くの皆さまの「いいね!」をよろしくお願いします。

■ 37年ぶりの新学部、始動

課題解決能力の育成を重視

貧困、環境問題、少子高齢化やＩＯＴによる技術と社会の革新など、解決すべき課題が山積する今日の世界。創生学部の学生はこうした現状の課題を学び、未来の自分が社会で活躍する姿を意識しながら課題に取り組んでいく。そのためには多面的な視野を持つことが非常に重要なだ。

例えば、地球温暖化の解決には気候、エネルギー、国際政治など、分野を超えた知識と実践力が必要になる。創生学部には自然科学系まで様々な分野を専門とする教員が所属。学生には各領域の知識に加え、多面的な視点から問題解決の方法を考えるカリキュラムが用意されている。「1年次は企業、地域などの実社会に出て学ぶ『フィールドスター』」は、

創生学部が輩出する人物像

創生学部で身につけた「発想力・企画力・実行力」「コミュニケーション能力」「実践的スキル」は、

STUDENTS VOICE

藤田祐司さん(創生学部1年)



私は小・中学校、高校時代を過ごし、たくさんの人たちに助けられられていることに気付きました。そして、今度は自分が大勢の人を笑顔にしたり助けたいと思うようになりました。その将来の目標の実現のためには、専門領域の学習に加えて、多面的な物事の考え方と広い視野を身につけることが必要だと考え、創生学部を志望しました。社会では、他の人と協力し、企画をまとめる力が必要だと思います。コミュニケーション能力を重視し、1年次から実際の社会やそこでの課題に触れて学ぶことができるカリキュラムに魅力を感じています。同期生には文系理系を超えた意欲の高い人たちが集まっています。お互いに刺激を与え合いながら、積極的に4年間を過ごしたいと思います。

創生学部で身につく力



卒業後に想定される活躍先

創生学部では、社会のさまざまな領域で活躍する人材を育成します。例えば、高い企画力とコーディネート力を活かして「社会を牽引する公務員」「新たな価値を創造する起業家および企業人」などが想定されます。また、広い視野と深い洞察力を身につけ、さらに、大学院で専門性を深めて「革新的な開発に従事する技術者」や「複数の専門領域からアプローチできる研究者」として活躍することも期待されます。



基礎ゼミでは異学年の1グループ5人程度のメンバーで複数の教員の指導を受けながら、学生主体のPBL形式の講義を展開

創生学部の特色

定められた一つの学問分野を軸に学んでいく従来の学部とは異なり、学生一人ひとりが自分で目標を設定し、課題や専門領域を選んで学んでいく、まったく新しい教育プログラム

「課題発見・課題解決能力の育成を重視したカリキュラム

- 科学技術・文化・環境・福祉などさまざまな分野の課題を把握し、解決する力を育てる授業科目群を初年次から卒業まで一貫して提供
- グループ主体のゼミ／ラボ活動を通して、コミュニケーション能力と協働してプロジェクトを実行する力を育成

「22の領域学修科目パッケージ」から自分にあった専門分野を選択

- 学生一人ひとりの関心に合わせて、人文・法・経済・理・工・農の各学部が提供する専門授業科目群(領域学修科目パッケージ)を選択
- 他分野の学生たちとの交流を通じて、ものごとを多角的にとらえる力を養成

少人数教育と幅広い分野の教員による手厚いサポート

- 初年次から卒業までの4年間を通じた少人数指導体制により、教員がきめ細やかに学生一人ひとりのテーマの設定、選択、履修を支援
- 異学年の学生どうしの交流を促進する「学年縦断型ゼミ」の編成

創生学部のカリキュラム

	1年次				2年次				3年次				4年次				
	ターム1 (4~6月)	ターム2 (6~8月)	ターム3 (10~11月)	ターム4 (12~2月)	ターム1 (4~6月)	ターム2 (6~8月)	ターム3 (10~11月)	ターム4 (12~2月)	ターム1 (4~6月)	ターム2 (6~8月)	ターム3 (10~11月)	ターム4 (12~2月)	ターム1 (4~6月)	ターム2 (6~8月)	ターム3 (10~11月)	ターム4 (12~2月)	
外国語	アカデミック英語(リーディング) アカデミック英語(リスニング)		基礎英語		初修外国語												
データ処理・分析			アカデミック英語(ライティング)			情報処理・データ分析		データサイエンス基礎									
初年次導入科目	創生学修入門																
課題探求学習科目(PBL)	スタディスキルズ (大学学習法)	フィールド スタディーズ (学外学修)	リテラシー基礎 社会における種々の 課題理解		リテラシー応用A,B (2,3年生合同) 課題発見把握中心のPBL			リテラシー応用C,D (2,3年生合同) 課題発見把握中心のPBL						フィールドスタディーズ コーディネート		リフレクションデザインⅠ 学修の絶活と学習準備	
スキル習得 中心の科目	リフレクション デザインⅠ				実践英語の集中学習(P,A,C,E) または データサイエンス実践の選択履修												
ゼミ・ラボ	基礎ゼミI,II(1,2年生合同)				基礎ゼミIII,IV(1,2年生合同)				プロジェクトゼミI,II				ソリューションラボI,II(卒業研究相当)				
専門分野の学修 (各学部から提供される 領域学修科目 パッケージを履修)			リフレクションデザインⅡ 領域学修科目への導入	領域(A,B) 領域(B)と課題の理解	領域学修科目 この間に、選択した領域学修科目パッケージから、40単位(20科目程度)以上を履修・専門領域の学修												
															リフレクションデザインⅢ 領域学修と社会的課題との 関係整理		

■ 37年ぶりの新学部、始動

自律と創生を
体現していく
創生学部への期待

新潟大学は日本海側随一の規模を誇る総合大学。教育理念として掲げるは「自律と創生」だ。そこからさらに歩みを進め、新しい時代の人材育成を目指し策定したターゲティングがある。それが「真の強さを学ぶ」だ。タフでありしなやかでもある真の強さを持つた人材は、「自分で学び行動する、新たな価値を創造する人材の育成」という創生学部のコンセプトそのもの。そして、これがまさに現在社会から求められる



人物像である。
教育・研究・社会貢献という三本の柱を軸にした新潟大学の人才培养。創生学部では人文社会・教育科学系・自然科学系を超えた研究者が教員だ。それぞれの見地から議論が展開され、教育へのモチベーションは非常に高い。「自律と創生」という全学の理念に照らし合わし、教育と研究を通して地域や世界の発展に貢献する人材を育てることが新潟大学の大きな使命です。創生学部は、深い専門知識と幅広い教養・視点を身につけた上で、新しいことに果敢にチャレンジする人材を輩出したいと思います。自分がどういう人間となり、社会で活躍していくのか。学生には創生学部の4年間で主体的に学び、確かな自分を創つていてほしいと思います」

課題発見・課題解決能力の必要性は、学生に限らない。これこそが今、私たちのビジネスの場で求められていることでもある。日々、多様化が進展する現代社会の第一線で活躍するためには、自分の持るべき専門性を持った上で、ジェネラリストとしての多角的な視野が必要なのだ。そのような社会ニーズを考えると、学問領域ベースではなく、社会の課題を見極め自分のキャリアを考えることができるのは、創生学部の教育は、新潟大学における優秀な人材輩出の一翼を担うであろう。

社会から寄せられる 熱い期待

創生学部の設置において社会からのニーズは大きな要素である。「課題などの全体のバランスを見ることができる人材を育てたいと思います。高い企画力と調整能力を發揮したり、広い視野と洞察力を持つて粘り強く研究を進めることができる人材を世に送り出したいと考えています」



下の円グラフに注目してほしい。これらは、県内外の336の企業や官公庁を対象に行つた創生学部に関するアンケート結果だ。創生学部がこれからの社会に必要な回答は約90パーセント、創生学部で学んだ学生を採用したいという回答は約87パーセントを占める。また、企業のトップから寄せられたメッセージからもその期待度の高さがうかがえる。

「現実社会では専門分野の知識だけが問われるわけではありません。企業の採用担当の方々と話すと、『自分の考えをしっかりと表現する力』『コミュニケーション



能力がまず問われると聞きます。つまりチームで協働できるかということが重要なのです。企業がユーチャーのニーズを把握するためには、営業と開発のディスクッションが不可欠です。そこでは当然コミュニケーション能力とそれがユーザが使いたいものを作れなければ意味がありません。ニーズがあるから、それに向けての知識や研究が必要で、技術は発展していく必要があります。そして全体をコーディネートする力が必要になる。つまり問題は社会の課題ありきなのです」

創生学部は、これからの社会に
とって必要だと思いますか?



創生学部を卒業した学生を
採用したいと思いますか?



336の企業・官公庁へのアンケート結果から(進研アド提供)

TOPICS 平成29年4月、理系3学部1学科制への転換

理学部 (200名) 農学部 工学部 (定員530名)

農学部

工学部

理学部

農学部

農学科 (定員175人)

応用生命科学プログラム 生物資源科学プログラム

食品科学プログラム 流域環境学プログラム

分野(学部)横断型 フィールド科学人材育成プログラム

理学部

これまでの6学科を1学科7プログラムに再編しました。専門研究の基礎をしっかりと身につけること、複数の専門にまたがる新分野に実践的に取り組む力を身につけることも可能になります。新理学部は、学生の多様な希望に応え、これからの社会に科学で貢献する理系人材を育てます。

農学は、「生命」「食料」「環境」を支える総合科学です。平成29年度より新潟大学農学部は1学科体制になり、入学定員が155名から175名に20名増員されました。また、新学科(農学科)の中に5つの主専攻プログラムを設けて専門的な教育を行い、地域や社会が抱える諸問題を多角的視点から総合的に理解し、具体的な解決策を提言できる構想力、リーダーシップと高い倫理観をあわせ持ち、我が国のみならず、広く世界で活躍できる人材を養成します。

これまでの7学科を1学科に統合して工学分野の連携を図り、学びに対する確固たる動機付けを行うことにより、学生が幅広い視野を持って基礎知識と専門分野をバランスよく修得することが出来る主専攻プログラムに再編しました。これからのグローバル社会に対応できる人材育成に向けて、工学系主専攻プログラムによる工学教育の充実と高度化を図ると同時に、これまでの工学の域を超えた分野横断・文理融合型主専攻プログラムを新設しました。

株式会社 第四銀行 取締役頭取 並木 富士雄 様

私たちの地元である新潟県では、人口減少や少子高齢化の進行による経済・社会構造の変化という課題を克服し、自立的で持続的な社会を実現するための「地方創生」への取り組みが拡大しています。第四銀行では、産官学金労連との連携を強化し、コンサルティング機能を発揮することで、「地方創生」の実現に貢献することを目指しています。そのため当行が求めているのは、「地方創生」実現のために、さまざまな課題に果敢に立ち向かい、未来を切り開くことができる「自ら学び、成長し続けるたくましい人財」です。このたび新設される「新潟大学創生学部」では、「課題発見・課題解決能力」の育成を重視されると聞いておりますが、これは当行が求める人財像と合致しています。今後の新潟県経済の発展、「地方創生」の実現のためにも、自ら課題を見つける力、その課題を解決する力を兼ね備えた人財を育成する「新潟大学創生学部」に大いに期待しています。

株式会社 福田組 代表取締役社長 太田 豊彦 様

ご存知のとおり新潟大学は様々な分野に多くの人材を輩出されており、弊社においても土木・建築の建設部門をはじめ、営業・経理・管理部門などあらゆる分野で新潟大学の卒業生が活躍をしています。弊社は建設を通じ安全で安心な社会を創造する企業として「物作りは人創り」という理念のもと、「明確な目標を持ち、その実現に主体的に考動する人材の育成」を心がけております。その意味でも課題の発見・解決能力の育成を重視した、発想力・企画力・実行力において高度な能力を身につけるための指導・教育・研究を実践する新設創生学部に高い関心を持って注目しているとともに、若い人たちにこの新しい学部には是非チャレンジしていただきたいと思っています。創生学部で身につけた知識・能力は、将来企業人としてまた社会人として、必ずや発揮することができますと信じています。未来を担う人材創出を目指す新潟大学創生学部に大いに期待しております。

注目される研究報告

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探求や社会の発展に貢献する研究を行っています。



人文社会・教育科学系(法学部)
稻吉 晃 准教授

| Profile | 博士(政治学)。2010年より新潟大学法学院に在籍中。

研究課題

地方利益とは何か

各地の“港”に注目し、それが造られた地方にもたらされた利益とは何なのかを研究



専門は日本政治史。そのなかで「地方利益」をテーマに研究を続けてきた稻吉晃准教授だが、その出発点をこう語る。

「日本政治史においては、戦前の（立憲）政友会が政権をとった時に、原敬が地方利益をうまくコントロールすることで地方の支持を集め、本格的な政党政治のシステムを作ったと言われています。そういう話を僕は大学生の時に聞いたんですが、“地方利益って…結局、何？漠然としていて、よく分からない”と思ってしまったんです。例えば、鉄道を敷けば地方利益になると人がいるけど、“ここに新幹線を造ります”と公約した候補者に投票する有権者はどれくらいいるのかということ。むしろ新幹線が通ったことで人が流出し、地方の利益にならないのではと考えることもできる。また、これが鉄道ではなく、河川整備や港はどうなるのか。そんな興味から、大学院に入ってすぐ、このテーマで研究を始めました」



↑稻吉晃准教授の著書『海港の政治史』。2015年、後藤・安田記念東京都市研究所「藤田賞」を受賞した



↑福岡県の門司税関(左)と門司港駅(右)。現在は観光地として知られる門司港だが、煉瓦造りの税関といった西洋風建築は明治から昭和初期の国際港の象徴だった



教科書に書かれた事柄の奥を探ろうとする姿勢が研究者たる所以だ。稻吉晃准教授は「港」に注目し研究を進める。

「戦前の日本の土木事業費はほとんどが鉄道と河川関連で、それらは既に研究し尽くされていた。逆に、港のように注目されなかった分野こそ研究し甲斐がある」

近代日本における各地の海港を題材に、地方にもたらす利益や省益を徹底的に研究。港の建設には鉄道の数十倍の費用がかかると言わっている。

「タイムラグはあるけれども、経済効果は確実にある。港を造り、使うことで地方利益がどうもたらされ、いかに地域社会にとって重要なかを知つてもらえば」

その成果として、著書『海港の政治史』が、後藤・安田記念東京都市研究所「藤田賞」を受賞した。若手研究者にとって憧れの賞の受賞は研究を推し進めるうえで大きな後押しになったようだ。

「こうして評価をいただき、“自分がやっていることは間違っていない”と思えました」

また、この著書内で「コスマボリタン型」と表現した「地域社会と中央政府の間で物事を見る存在」に大学の教員はなっていくべきだという思いもある。

「外からの視点を生かしながら、時には地元のことを外へ向けて発信していく。そんな存在でありたいと思います」

今後の研究の深化と、それによる地方都市の発展への寄与に一層、期待が募る。

医歯学系(大学院 医歯学総合研究科)
小松雅明 教授

| Profile | 博士(医学)。専門は生化学、細胞生物学。オートファジーについて分子から個体レベルの解析を進めます。

研究課題

細胞内たんぱく質分解機構 オートファジー

基底レベルで起きるオートファジーの意味に注目
細胞をきれいに保つ機能を解明

昨年、東京工業大学の大隅良典教授がノーベル賞を受賞したオートファジーという細胞内現象。本学医歯学総合研究科で生化学を専門にする小松雅明教授はこの分野で長きに渡り研究を進める。

「オートファジーとは、栄養不足に応じて細胞内のたんぱく質やミトコンドリアなどの小器官を袋に取り囲んで分解し、分解産物をエネルギーや新しいたんぱく質の合成にリサイクルする現象のこと」

多くの研究者がオートファジーの栄養飢餓に対応する現象に注目する一方で、小松教授は、栄養状態に関係なく恒常に起こっているオートファジーに着目してきた。

「オートファジーは体内に栄養が十分にある状態でも低いレベルで起こっています。

私たちはその基底レベルで起こっているオートファジーの意味に注目し研究を進めました。結果、それは古くなった細胞の中身を入れ替え、新陳代謝を促す働きがあることを解明し、この分野に新しい概念を提唱したのです」

小松教授は、遺伝子操作でオートファジーが起きないマウスを作製。その結果、様々な病気が起きることを確かめた。

「肝臓でだけオートファジーが起きないマウスは栄養を与えると肝障害や肝がんを発症します。また、神経細胞でオートファジーが起きないとマウスにアルツハイマー病に似た症状が表れました。細胞内に異常な形になった小器官やゴミがたまり、それが病気を引き起こすのです」

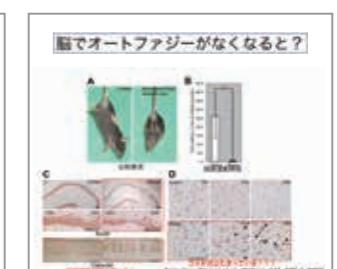
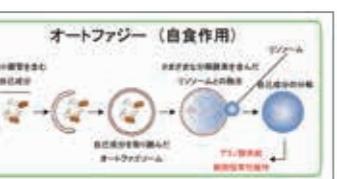
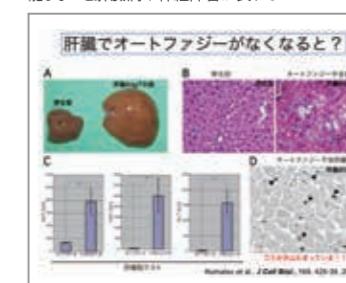
がんや老化に伴う病気にはオートファジーが関わっていると考えられ、国内外で盛んに研究が進められている。

「アルツハイマー病のような難治性の神経疾患はカタチが崩れた異常たんぱく質が毒性を発揮して起こると言われています。オートファジーを誘導しそれらを分解することで、発症を遅らせることができます。このように臨床や創薬の分野にオートファジーの研究が波及したことが私たちの発見の貢献だと思います」



↑オートファジーは微生物の酵母から人間まで多くの生物に共通する仕組み。右は動物細胞内でのオートファジーの模式図

↓様々な臓器でオートファジーが欠損したマウスを用いた実験。オートファジーが機能しないと肝臓病や神経障害が表れる

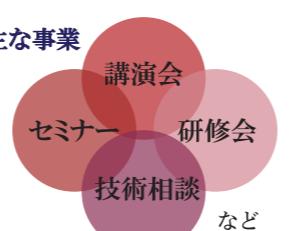


企業の技術向上を目指す産学官交流ネットワーク 新潟大学産学連携協力会

新潟大学地域創生推進機構と産業界等が密接に連携し、
産業の活性化、高度化、地域社会の発展を目的に
技術の向上及び地域連携を図ります。

詳細をお知りになりたい方、加入ご希望の方は、ホームページをご覧ください。[新潟大学産学連携協力会](http://www.irep.niigata-u.ac.jp/kyouryokukai/)

お問い合わせ先 新潟大学産学連携協力会(新潟大学地域創生推進機構内) TEL 025-262-7553 FAX 025-262-7577 Email unico@cer.niigata-u.ac.jp



<http://www.irep.niigata-u.ac.jp/kyouryokukai/>

新潟大学附属図書館

学術書・専門書多数。地域に開かれた明るく開放的な図書館です。
同窓生・一般の皆様もお気軽にご利用ください!



開館時間：平日 8:00 ~ 22:00
土・日・祝日 10:00 ~ 22:00
※学生休業期間については開館時間を短縮します。
※本学の定期試験期間中は、閲覧席利用をお断りすることがあります。
休館日：8/11 ~ 8/16, 年末年始等

開館スケジュールや利用方法は附属図書館ホームページをご覧ください。

新潟大学附属図書館 情報サービス係 TEL 025-262-6221 / FAX 025-264-2218 ホームページ <http://www.lib.niigata-u.ac.jp/>

6/21(水)開催
新大ライブラリーシネマ
16:40よりライブラリーホールにて名作映画「雨に唄えば」を上映します！入場は無料。どなたでもご覧いただけます。

新潟大学附属図書館 情報サービス係 検索



”学びの先“ 新潟大学で”真の強さ”を学び、

**新潟大学で“真の強さ”を学び、
社会に羽ばたいた10万人を超える卒業生。
社会で活躍する卒業生をご紹介します。**

五十嵐大輝さん
profile.
1987年新潟県長岡市
生まれ。2011年新潟大
学人文学部卒業。ブライ
ベートではフェイスブック
新潟人会ランニング部
新潟今昔写真プロ
ジェクトチームなどの活動
力を注ぐ。

東京マラソンの私設エイドで糸魚川復興をPR

「県外から新潟の
魅力を発信、それが
ライフワーク」

「以前から東京マラソンで何かやりたいという話をしていたので、糸魚川大火のニュースを見て、すぐにミーティングを開き、復興応援私設エイドを出すことを決めました」エイドとはランナーをサポートする給水ポイントのこと。糸魚川と新潟の魅力を届けようと企画。メンバーでスポンサー集めに奔走し、糸魚川市役所

合つてくれた。五十嵐さんが取材を受け、掲載された記事は800シアを越えた。メディアに報じられたこともあり、その記事を見て駆けつけた方もいたという。

「メンバーのみんなに助けられた。マラソンという共通の趣味を通して新潟の魅力を届けることができたのは何よりうれしいです」

Information

〈フェイスブック新潟県人会
ランニング部 facebook page〉
<https://www.facebook.com/groups/1833692686857470/>
〈新潟今昔写真〉
<http://neppu.jp/niigata-konjaku/>

卒業生と母校との絆、ポケットに「新潟大学カード」入会受付中!

新潟大学全学同窓会では、新潟大学の発展を支援し、学部間の枠を超えた同窓会員へのサービスと連携を深める目的で、三菱UFJニコスと提携してクレジット機能付きVISA国際カード「新潟大学カード」を発行しています。

新潟大学カードに関するお問い合わせ先
新潟大学全学同窓会事務局
電話:025-262-7891
(受付時間 平日10:00～15:00)
E-mail:n-doso@adm.niigata-u.ac.jp



恩師：谷本 盛光 名誉教授 元・新潟大学理学部教授 教え子：宇都宮 悟さん 清水 勇介さん

学に着任し、ニュートリノの研究を進めていました。当時、宇都宮君は修士の2年生。彼の研究テーマを引き継ぎ進めてくれたのが清水君です。清水君が大学院生のとき宇都宮君から始まった研究が清水君のところで実を結んだわけです。その間が十数年。研究室や学生の雰囲気も随分変わりました。

宇都宮 谷本さんはいつも研究の学生が個々で研究を進めるやり方でしたが、それ以来、研究室でニュートリノの勉強会が始まりました。谷本さんや先輩から直接指導を受けられたのは感謝しています。

清水 谷本さんはいつも研究の成果をカタチに残しなさいとおっしゃっていました。この世界でカタチとは論文のこと。今も心に残っています。谷本 個人ではなく研究室全体で育つことが大事。新潟大学には優秀な院生が多くだったので、きちんととした論文を書かせようと思つていました。

清水 そうそう、僕が研究室に入つて最初に教えられたのは「谷本さんを“先生”と呼ばない」ということでした。

宇都宮 ノーベル賞を受賞した益川敏英さんもおっしゃっていましたね。尊敬の心を持つた上で、「先生」ではなく「さん」で呼ぶのは、この分野独特的のならわしです。

学に着任し、ニュートリノの研究を進めていました。当時、宇都宮君は修士の2年生。彼の研究テーマを引き継ぎ進めてくれたのが清水君です。清水君が大学院生のとき宇都宮君から始まった研究が清水君のところで実を結んだわけです。その間が十数年。研究室や学生の雰囲気も随分変わりました。

宇都宮 谷本さんはいつも研究の成績をカタチに残しなさいとおっしゃっていました。この世界でカタチとは論文のこと。今も心に残っています。

谷本 個人ではなく研究室全体で育つことが大事。新潟大学には優秀な院生が多くだったので、きちんととした論文を書かせようと思つていました。

清水 そうそう、僕が研究室に入つて最初に教えられたのは「谷本さんを“先生”と呼ばない」ということでした。

宇都宮 ノーベル賞を受賞した益川敏英さんもおっしゃっていましたね。尊敬の心を持つた上で、「先生」ではなく「さん」で呼ぶのは、この分野独特的のならわしです。

谷本 研究の場面では教授も学生もいません。知識やキャリアは違えど、研究や議論に向き合う態度においては同等だという考え方には脈々とあるんですよ。

シリーズ vol. 9

恩師と語らう

師弟で懐かしむ当時の新潟大学



宇都宮 谷本さんは人脈が広く、いつも学生をエンカレッジしてくれました。学生にも国内外の共同研究者の方と研究できる機会を与えてくださった。そこで知識や自言をつけることができました。



たにもともりみつ
谷本盛光
名誉教授

博士（理学）。専門は素粒子論。愛媛県出身。愛媛大学理学部物理学科卒業後、広島大学大学院理学研究科博士課程修了。愛媛大学助教、教授を経て、2000年より新潟大学理学部で教鞭をとる。理学部長、自然科学系長を務め、平成26年3月退官。



うつのみやさとる
宇都宮 悟さん

博士（理学）。素粒子論を学び、平成16年新潟大学大学院自然科学研究科博士課程修了。博士研究員を経て、医学物理へ分野転向。現在は新潟大学医学部保健科学助教を務める。



しみず ゆうすけ
清水勇介さん

博士（理学）。素粒子物理学、自然構造科学専攻。平成23年新潟大学大学院自然科学研究科博士課程修了。現在は日本学術振興会特別研究員（PD）として、広島大学で研究活動を進めている。

谷本 研究の場面では教授も学生もありません。知識やキャリアは違つても、研究や議論に向き合はう態度においては同等だという考

でスペインに行かせてくれました
共同研究者として僕の名前を論文
に載せてもらつたこともあります

谷本 他大学や研究者との交流は乗り切ると自信になる。学生をしていますが、学生と接するときは谷本さんを意識しています。

（理学）素粒子物理
自然構造科学専攻
23年新潟大学大学院
自然科学研究科博士
修了。現在は日本学
振興会特別研究員
(JSPS)として、広島大学で
活動を進めている。

Campus Information

地域に密着しながら様々な活動を続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

井上康生氏を招いて柔道教室・講演会を開催しました

学生支援事業の一環として、平成29年3月28日(火)、東海大学体育学部准教授で全日本柔道連盟男子監督の井上康生氏をお招きし、柔道教室及び講演会を開催しました。柔道教室では、本学の柔道部員をはじめとする約50名が旭町課外活動施設の柔道場に集まり、井上康生氏の得意の内股の技術指導を受けました。部員らは、目の前で行われる実演に息をのみ、直接技術指導を受けられるこの貴重な機会に、真剣なまなざしで臨んでいました。有壬記念館大会議室に会場を移して行われた講演会では、日本柔道復活に向けて、最強

かつ最高の選手育成のための強化方針と5つの改革や、監督として全階級メダル獲得の偉業を成し遂げた2016年のリオデ

ジャネイロ五輪までの道のりなどを熱く語り、会場に詰めかけた約120名の学生・教職員等が熱心に聴き入っていました。



「第1回新潟大学シーズプレゼンテーション」を東京事務所にて開催しました



首都圏企業との共同研究の推進を目的とした「第1回新潟大学シーズプレゼンテーション」を平成29年4月19日(水)、東京事務所を設置しているキャンパス・イノベーションセンター(東京都港区)にて開催しました。

これまでシーズプレゼンテーションは、新潟県内を中心開催してきましたが、研究成果をより積極的に社会に還元するため、新潟大学東京イノベーションクラブの協力を得て、今年度初めて首都圏で開催しました。

当日は、大学院医歯学総合研究科柿原助教より「骨に良い食品素材のスクリーニング～機能性表示食品の開発へ向けて～」、工学部阿部准教授より「機械学習を活用したゲノムビックデータからの知識発見」、工学部寒川准教授より「接触力・光・温度複合 MEMSセンサによる触り心地・見た目・温もりを含む質感計測」について、プレゼンテーションを行いました。企業関係者や行政、金融機関などから多数の参加があり、先端技術のプレゼンテーションについての質問も多く寄せられ、盛況のうちに終了しました。

公益財団法人環日本海経済研究所(ERINA)と連携協定を締結しました

公益財団法人環日本海経済研究所(ERINA)と学術研究及び地域社会の発展に寄与することを目的として、平成29年4月17日(月)に連携・協力に関する協定を締結しました。

これまでに、大学院現代社会文化研究科と連携協定を締結し、留学生のインターンシップなどで連携してきましたが、その関係をより発展させるため、全学に規模を拡大した連携協定を締結することとしました。

今後は、北東アジア地域と新潟県をはじめとする本邦日本海沿岸地域との国際交流の推進や、同地域における国際的教育・研究事業の展開など、様々な分野で相互に連携・協力を進めていく予定です。

締結式では、高橋学長から「国際的な教育研究拠点を形成し、国際社会に貢献していくため、ERINAとの連携強化は大きな力になるものと期待している」、ERINAの河合代表理事からは「多様な知的資源を有する新潟大学との連携は、ERINAの研究活動に更なる拡がりを与えるものと期待している」とそれぞれ今後への期待が述べされました。

